

令和3年度 日之影町立高巣野小学校 学校評価

○「評価」について、目標の達成度に基づき、次の4段階で評価を行う。

4：期待以上、3：期待どおり、2：やや期待を下回る、1：改善が必要

○「評価者」…「第一次」：学校による自己評価、「第二次」：保護者評価、「第三次」：学校運営協議会委員評価

評価	達成目標と方策		第一次評価者所見	評価		
				第一次	第二次	第三次
学力向上	1	45分の授業の充実を図るとともに5分以上の習熟の時間を確保し、「分かる授業」「鍛える授業」を目指し、児童に確かな学力を身に付けさせ、各種学力検査で全学年、全領域で平均（全国・県）を上回るようにする。	2学期の全学年の単元テストの結果の平均は、国語87点、算数84.5点で、昨年度より若干の向上が見られた。全国学力調査では、思考力判断力表現力等の部分では「書くこと・話すこと」では72.7（国60.7 県63.2）児童一人一人の理解や思考を十分に把握して、次の学年に向けた学びの見届けを確実に行うようにする。	3	3	3
	2	簡潔で分かりやすい指示・発問に努め、85%以上の児童が集中して話を聴いたり、自分の考えを進んで発表したりすることができるようにする。	86%の児童ができると回答した。特に、国語の授業を中心に、語型表の活用で個人の考えをまとめて伝え、友達のを聞いて自分の考えとの相違を考えさせる等の工夫をしたことで、児童の集中力が増し、聴く意欲や発表力を高めたと考えられる。継続して行い、学力の定着に結び付けるようにする。	3	3	3
	3	個人や集団でしっかり思考する場を工夫するとともに、対話型の発表を通してみんなで考えをまとめていくことができるようにする。	86%の児童ができると回答した。引き続き発表する機会を確保することや自分の考えをICT機器を活用して一斉に提示・分類することで自分と他との意見の相違が分かりこれまでに以上こ進んで発表することが徐々にできてきた。話し合いの仕方等しっかり定着させるため継続した指導が必要である。	3	3	3
	4	読書指導や読み聞かせの充実を通して、1週間に1冊以上借りる等の個人読書目標をもたせ、85%以上の児童が目標を達成できるようにする。	91%の児童ができていると回答した。昼休みだけでなく朝の時間や放課後にも本の貸出を行い、本に触れる機会を設けた。保護者による読み聞かせは本年度実施できなかったが、図書活動推進委員による給食時間の放送や昼休み等を利用して本の紹介や読み聞かせを行った。読書通帳への記録も児童は楽しみにしているようである。	3	3	3
生徒指導	1	あいさつや返事、礼儀の指導を徹底し、学校や家庭、地域でのあいさつやお礼など85%以上の児童が達成できるようにする。	88%の児童ができると回答した。しかし、教職員は60%と差が見られた。評価は学級での指導に加え、児童会を中心としたあいさつ運動で意識を高めているが、一人でもあいさつできるよう継続して指導する。	2	3	3
	2	思いやりのある行動や丁寧でやさしい言葉遣いを85%以上の児童ができるようにする。	95%の児童ができると回答した。本年度も学校生活の中で上級生が下級生を思いやる言動や友人間で困っている友達を気遣う場面が多く見られた。遊びや放課後等では、言葉遣いが荒くなる場面も継続しているため人権意識や実践力が高まるように、その場その場での指導を継続する。	3	3	4
	3	ろうか歩行や室内での過ごし方など、考えて判断・行動し、80%以上の児童がけじめのある行動がとれるようにする。	91%の児童がけじめのある行動がとれていると回答した。ただ教職員の評価は、今年も50%で意識の差が見られた。引き続き学校での無言廊下歩行、清掃、室内での過ごし方等、場に応じた静と動のけじめのある行動を賞賛し行動が変容するよう継続して指導する。	2	3	3
	4	学校での朝のボランティア活動や地域におけるボランティア活動や行事等に90%以上の児童が進んで参加できるようにする。	91%の児童が進んで参加していると回答した。学校での朝のボランティア活動に意欲的に参加している。毎日、上級生から下級生への声かけや児童の教え合いが見られ、リーダー性や思いやりの心が育つよい機会になっている。マンネリ化している部分もあり、取組に個人差が見られるようになってきている。	3	4	4
体力向上、安全指導	1	体育指導法の充実を図り、90%以上の児童が全力で運動に取り組むとともに、友達と協力しながら競技することができるようにし、「県体力テスト」でA及びB判定の児童が70%以上になるようにする。	98%の児童が全力で運動に取り組んでいると回答した。体力テストA判定は3名であった。立腰への取組、体育だけでなく昼休みの運動等元気に活動する児童がみられた。継続してトランポリンやバランコ等体幹や体力の個人意に合わせた指導を工夫しながら柔軟性を高める運動も継続して取り組ませる。	3	4	3
	2	「学校で天気の良い日には、昼休みに友達と仲良く外遊びをしている」と回答する児童が90%以上になるようにする。	83%の児童が外遊びをしていると回答した。全校や各学級において「みんなで遊ぶ日」を設定し、外で遊ぶことを促したり学級担任が一纏めに遊んだりすることで、進んで体を動かしたり、集団遊びの楽しさを味わったりした。	4	4	4
	3	立腰指導を徹底し、「様々な場面（学習・給食など）で姿勢に気を付けている」と回答する児童が80%以上を達成できるようにする。	74%の児童が姿勢に気を付けて話を聴いていると回答した。教職員82%と評価が増えてきている。指導の効果が徐々に出てきているのを感じる。全校集会で立腰を意識して話を聞く児童が増えてきている。授業開始と終わりの立腰指導を児童の号令だけでなく教師も意識して指導している。毎月の集会で立腰の必要性に気付かせる指導を行ってきたが引き続き意図的・計画的な指導を行う。	3	3	3
	4	家庭と連携して生活リズムやメディアの利用の注意喚起を図り、「8時間以上の睡眠をとり毎朝朝食を食べている」と回答する児童が100%になるようにする。	95%の児童ができていると回答した。タブレット活用によりメディアへの関心が高まっているが、一方で長時間メディアを扱ったり睡眠時間を削ったりが徐々に増えてきている。本年度保護者も含め、4年生以上にはスマホ・ケータイ安全教室を行い、活用の仕方について示唆を与えた。すこやか週間の取組や学級通信、保健だよりでの啓発は継続していく必要がある。	3	4	3
家庭・地域との連携	1	保育園への訪問や保育園の小学校体験などの相互の交流の充実を図り、互いのよさを味わわせるとともに、職員間の研修や交流も行き、連携した教育を推進する。	低学年と保育園児との体験交流を本校で実施することができた。また、1年生は保育園を訪問しての交流活動も実施することができた。次年度も交流の仕方の工夫を行い、互いのよさを味わわせる。教職員の交流も行い、保小連携した指導の在り方を協議し、指導に生かしていくようにしている。	3		3
	2	町教職員研修会や町教育の日、集合学習等への積極的な取組を通して、小・小中の連携した教育の充実を図る。	町教職員研修会での授業提案や研究協議の充実を目指して、主題研究に熱心に取り組んだ。集団思考の場において児童が自分の考えを伝え、話し合いの中で深めていくために語型表とICTを活用した研究に取り組んだ。今後も小・小中の連携を進め、他校の実践も取り入れながら教育活動の充実を図っていくことが大切である。	3		3
	3	コミュニティースクールとしての機能を生かし、家庭や地域との連携を深め、家庭や地域社会の教育力の積極的な活用を図る。	各教科等では、児童が地域に出かけたり講師を招聘したりして地域を知り、ふるさとを愛する心情を育むことができた。また、全校児童から地域の方への年賀状送付を通して、つながりを継続することができた。次年度も地域とつながる手立てを工夫していくことが大切である。	3	3	3